

2025年度事業計画書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

情報科学の国際研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行うとともに、将来を担う若手研究者の育成を図るため、情報技術に関する競技会を開催する。

助成事業

1. 研究者交流助成事業

2025年度研究者交流助成として以下のとおり事業を行う。

海外で開催される国際研究集会への派遣(研究者海外派遣助成)及び国際研究集会参加又は調査・共同研究目的での外国人研究者の来日(外国人研究者交流助成)について渡航費及び滞在費の一部を助成する。

助成金総額：3,000,000円

原則として、派遣地域又は出発地域別に下表のとおりとする。

派遣地域又は出発地域	助成金額
韓国、台湾、香港	8万円
中国、東南アジア	13万円
ハワイ、オーストラリア	16万円
北米、中米、ヨーロッパ	24万円
その他	個別に決定

助成件数：13～15名程度

応募資格(研究者海外派遣助成)：

- ①大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する研究者。
(大学院生も可)
- ②渡航目的が、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会における研究発表又は招待講演を行うこと。
- ③所属機関・部署の長(大学院生は指導教官)又は当財団の役員・評議員の推薦があること。
- ④過去2年間に同一目的で当財団より助成を受けていないこと。

応募資格(外国人研究者交流助成)：

- ①海外における大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する外国人研究者。(大学院生も可)
- ②来日目的が次のいずれかに該当すること。

a. 日本で開催される情報科学に関する国際研究集会において、研究発表又は招待講演を行う。

b. 日本の学術研究機関において、情報科学に関する調査研究又は共同研究を行う。

③次のいずれかの推薦があること。

a. 国際研究集会の組織委員長又は論文委員長等

b. 受入れ機関・部署の長、又は当財団の役員・評議員

④過去2年間に外国人研究者本人が当財団より助成を受けていないこと。

募集方法：募集要項を大学等学術研究機関に郵送するほか、当財団ホームページ上に募集要項及び申請用紙を掲載して公募する。

募集締切：2025年5月末日

募集対象派遣渡航期間：2025年4月1日～2026年3月31日（渡航済みも対象とする）

募集対象来日期間：2025年7月1日～2026年3月31日

申請方法：所定の申請用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。

選考方法：研究交流助成選考委員会において選考し、理事長が決定する。

なお、当該選考委員は理事会で選任する。

採否通知：締切日の翌月末までに、申請者に採否を通知する。

交 付：助成金は渡航時期を勘案して交付する。

使 途：助成金は、助成金交付規程に従い申請書記載どおりに使用する。万一途中で変更がある場合には、予め申し出て当財団の承認を求めること。参加が中止になった場合は、ただちに返却すること。

成果報告：会議終了後または助成金交付後1ヵ月以内に報告書を当財団に提出するものとする。

成果刊行：成果について刊行する場合には、“公益財団法人 情報科学国際交流財団 (International Information Science Foundation) の助成による”旨を明記する。

2. 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の研究課題の提言を発信することを目的とした調査・分析等を行う産学の研究者グループに対する助成を行う。

ただし、事業の実施については2018年度以降休止している。

競技会開催事業

大学対抗国際プログラミングコンテストを開催するとともに、その関連事業を行うものとする。

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、アジア地区の大学生、大学院生及び高等専門学校生を対象とした大学対抗国際プログラミングコンテスト(ICPC-International Collegiate Programming Contest)アジア地区大会を開催し、コンピュータプログラミング技術の向上と国際性を養う。

競技会開催費総額： 22,040,000 円

実施運営方法：理事会でICPC運営委員を選任する。開催実施校はICPC運営委員が選

定し、理事長が決定する。ICPC 運営委員が実行委員長・審判長を選任し、実行委員長は大会実行委員会・審判団・ICPC セクレタリーズ(OB/OG)を組織し、事業計画に基づき実施運営を行う。ICPC 国際ルールの他に、大会ローカルルール及び選抜ルールは ICPC 運営委員会及び実行委員会で定める。

成果報告： 報告書を作成し、関係各署に送付する。

実施内容：

- (1)国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選の一つとして ICPC2025 横浜大会を東京科学大学(旧 東京工業大学)と共同で開催する。ICPC は学生のコンピュータプログラミング技術の向上を目的に ACM(国際計算機学会)が 1997 年以来世界的規模で開催し、現在は ICPC Foundation(本部;米国ペイラー大学)が運営を行っている。横浜大会は前年度に引き続き東京科学大学が共催校となり、実行委員長・西崎真也教授(東京科学大学)及びセクレタリーズが実施運営の中心を担う。また、審判長を選任し、審判長が審判団を構成する。
 - ①全国の大学及び高等専門学校の情報関係学科に参加募集ポスター等を送付し、インターネットにより参加登録を受け付ける。
 - ②インターネットを利用した国内予選を行い、本選に進出するチーム(選手 3 名コーチ 1 名で構成)を選抜ルールに則り選抜する。
 - ③本選は国内予選から選抜する 50 チームと海外 10 チームの全 60 チームで、12 月 6、7 日に横浜産貿ホール及び横浜シンポジア(神奈川県横浜市)に於いて行う。初日は開会式・リハーサル等、2 日目はコンテスト・表彰式・閉会式・懇親会等を行う。
 - ④原則として、前大会である ICPC2024 横浜大会に準じて運営する。
- (2)ICPC2025 横浜大会で優秀な成績を収めたチームを Asia Pacific Championship(APC; 東南アジア地区のプレイオフ大会)へ派遣する。横浜大会での優勝チーム以外のチームは、APC において世界大会出場権を得るため他の東南アジア地区から選抜されたチームと競う。選出に関するルールは APC 開催ルールに則るものとする。また、その際に APC 運営に携わる担当者を派遣する。
- (3)2024 年 12 月に行った ICPC2024 横浜大会の決勝にあたる世界大会は 2025 年 9 月にバクー(アゼルバイジャン)で開催予定となっている。決勝進出の権利を得たチームの選手・コーチを当該世界大会へ派遣する。また、その際に併設開催される指導者会議に学生の育成及び大会運営に携わる担当者を派遣する。開催時期及び場所に変更が生じた場合は適宜対応するものとする。

以上